京都市市町村体制づくり支援交付金 自己評価調書

団体名：

亀岡市

1. 平成29年度 市町村体制づくりの取組について【総括表】

計画の概要等	背景	子育て支援業務には、妊娠期からの切れ目のない支援が求められており、市民の利便性の向上と、窓口事務の効率化が必要であるが、現状の保健センター1階での受付では、窓口が狭く待ち時間が生じている。		
	必要性	保健センター1階事務室をオープンフロアとする改修工事に先立ち、関係課を市役所から保健センターに移転・集約化し、「子育て支援業務ワンストップ窓口」を設置することで、関係機関との緊密かつ迅速な連携を図る必要がある。		
	概要	これまで市役所にあったこども未来課及び保育課（こども医療に関すること・児童手当に関すること・保育所幼稚園に関すること等）を保健センターに移転させ、これまで保健センターにあった健康増進課のうち成人保健に関する部門を市役所に移転させたうえ、保健センターのレイアウト変更に伴う修繕等を行う。		
	効果	窓口対応時間の削減 職員平均単価：約165円/5分/1人、約5分相当の削減効果（15分→10分）、対応職員数65人、開庁日244日 ①事業実施前7,850,700円（=165円×15分/5分×65人×244日）－②事業実施後5,233,800円（=165円×10分/5分×65人×244日）=2,616,900円		
事業実施による効果について				
事業分類	事業名・実施項目	取組実績の概要	主な実績数値（出来高数値等）	事業効果（単位：人・千円等）
小規模市町村支援				
広域連携事業支援	子育て支援業務ワンストップ窓口設置事業	便所改修工事、システムセットアップ作業委託、物品運搬等業務委託	事業費 7,805千円	窓口対応時間削減効果 2,617千円

（記載要領）

- 記載欄が不足する場合は、適宜追加すること。
- 「主な実績数値（出来高数値等）」、「事業効果」については、出来るかぎり数値化した客観的な指標を記載すること。

京都市町村体制づくり支援交付金 自己評価調書

団体名

亀岡市

2. 平成29年度 京都市町村体制づくり支援交付金事業の個別評価について 【小規模市町村支援・広域連携事業支援用 個別表】

支援区分	事業名・実施項目							
広域等	子育て支援業務ワンストップ窓口設置事業							
事業着手前								
課題・現状	子育て支援業務には、妊娠期からの切れ目のない支援が求められており、市民の利便性の向上と、窓口事務の効率化が必要であるが、現状の保健センター1階での受付では、窓口が狭く待ち時間が生じている。							
事業概要	これまで市役所にあったこども未来課及び保育課を保健センターに移転させ、これまで保健センターにあった健康増進課のうち成人保健に関する部門を市役所に移転させるため、保健センターのレイアウト変更に伴う修繕等を行う。							
期待される事業効果等	市民の利便性の向上・窓口対応時間の削減							
事業実績								
取組状況	便所改修工事、システムセットアップ作業委託、物品運搬等業務委託							
主な実績数値 (出来高数値等)	事業費 7,805千円							
期待される事業効果等 に対する達成状況	○	(左の理由)	これまで市役所と保健センターに分かれていた関係課が保健センターに集約されたことで、迅速な連携が可能となり、窓口対応等における市民の利便性の向上が実現できたため。					
事業効果								
事業効果の考え方	窓口対応時間の削減に伴う効果…【事業実施前】7,850,700円(=165円×15分/5分×65人×244日)－【事業実施後】5,233,800円(=165円×10分/5分×65人×244日)＝【効果額】2,616,900円							
年度	29	30	31	32	33			
本事業を行わなかった場合に係る経費等(a)	7,851	7,851	7,851	7,851	7,851			
本事業の実績額(b)	5,234	5,234	5,234	5,234	5,234			
効果(a)-(b)	2,617	2,617	2,617	2,617	2,617			

単位:千円

(記載要領)

1 事業毎に調書を作成すること

2 「期待される事業効果等に対する達成状況」については、期待される効果を上回ったときは◎、概ね期待どおりの効果であるときは○、期待される効果を下回ったときは▲を記載すること。